

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスの取れた人材、将来において社会で自立できる人材、社会に貢献できる人材を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

- 1 すべての生徒の学力を3年間でより一層向上させ、進路希望を実現する学校
- 2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り、「行って良かった」と思える学校
- 3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校
- 4 学校教育目標の達成に向け、教職員が一丸となって日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の頭（学力）、体（体力）、心（精神）を鍛える。「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

2 中期的目標

1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る。

(1) 教志コース（教員養成系コース）を充実、発展させる。

ア 1年生を対象にしたコースのガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを正しく選択できるようにきめ細かい指導を継続する。

イ 2年生の「教志入門」の内容を充実させるとともに、効果的な運営を継続する。

ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題等の作成や教志実践を主体的に行うことにより、進学意欲や情報活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化をより一層進める。

エ 3年生の「授業研究」のさらなる充実を図る。

※ 進路実現の一環として、大阪教育大学・育成プログラム「教師にまっすぐ」受講及び「作文コンクール」応募を推進する。

(2) 3年間の計画的な取り組みを通して、学力向上・進路目標の実現を図る。

ア Advance 講座・Basic 講座や講演会等の進路関連行事の充実を図り、生徒に明確な進路目標を立てさせ、その実現に向けて取り組ませる。

イ GIGA スクール構想により整備された無線 LAN(Wi-Fi)のアクセスポイントの活用と共同学習等1人1台端末の効果的な使用方法の研究に努め、ICTを積極的に活用した授業改善を推し進め、「見てわかる授業」「板書時間の削減」「机間巡視による個別指導の増加」「対話的授業」に取り組むことで授業の効率化を図り、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。同時に授業外での1人1台端末活用を促進し、授業以外の自主的な学習時間を増加させることで学力の向上につなげる。

※ 学校教育自己診断(生徒)において、平日の授業以外の学習時間を令和7年度は1年生65分以上、2年生70分以上、3年生180分以上とする。

(R2:1年生59分、2年生62分、3年生174分、R3:59分、61分、177分、R4:60分、52分、165分)

※ 学校教育自己診断(生徒)において、「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」を80%以上とする。(R4:72%)

※ 学校教育自己診断(教員)において、「ICTを活用した授業を実施し、思考力、判断力、表現力の向上につなげている。」を90%以上とする。

(R2:75%、R3:85%、R4:81%)

※ 大学進学において、関関同立、国公立大学の合格総数を令和7年度は120人、10人以上にする。

(R2:154人、8人、R3:110人、2人、R4:119,5)

2 学校生活—規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることができるよう、一層の環境改善を進める。

(1) 規範意識の高揚を図る。：遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー 等

(2) 人権学習の計画的な実施により人権意識の高揚を図るとともに、安全・安心で意欲的な学校生活を推進する。

：挨拶指導、清掃の徹底、環境(学習・生活)整備、高いレベルでの文武両道(学校行事・部活動の推進)、障がい者差別の解消、ネットリテラシーの習得、他者を尊重する心の育成、いじめを起こさせない環境作り 等

(3) 学校行事等の取り組みで生徒の主体化を図る。

(4) 「総合的な探究の時間」やLHRにおいて、人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。

※ 学校教育自己診断(生徒)において、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答を令和7年度は90%以上とする。(R2:86%、R3:87%、R4:87%)

3 学校運営—地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。教員が健康で意欲的に働ける職場環境を整える。

(1) ICTの積極的活用—校務処理システムと校内LANを最大限活用して生徒情報総合システムを構築し、校務運営の効率化を図る。

(2) 新任・経験年数の少ない教員に研修とともに、地域の小中学校などの授業参観の機会を設け、授業力の向上を図る。

(3) 教志コースの充実、教科教育力の向上を視野に入れた施設設備・教材教具の改善と充実を図る。

(4) 地域連携の取組の定着・推進—地域行事や八中校区地域教育協議会への参画、北高アカデミアの実施等を通して、地域からの信頼を一層高める。

(5) ペーパーレスやオンライン会議等により業務の効率化を図り、教職員の働き方改革を進める。

※ 北高アカデミアの参加者満足度について、令和7年度も引き続き95%以上を維持する。R2・R3:コロナ禍で未実施、R4:97%)

4 広報—常に情報発信に努め、保護者・地域から信頼された、開かれた学校づくりを推進する。

(1) 広報活動の強化—学校説明会・ホームページ・メールマガジン・校長通信・バナー広告掲載等を通して、本校の取組及び連携機関の周知を図る。

(2) スクールミッション、アドミッションポリシーの周知を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年12月実施分〕 | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| 【学力・進学保障】 ・「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定的回答率が上昇した。ICT機器を活用した授業が定着し、授業改革が進んできた成果であると考える。 ・今年度、スマホの利用時間は全体的に短くなった。しかし、平日の授業以外の学習時間は増えておらず、さらに短くなっていった。また、定期考査に向けて取り組み始める時期も年々遅くなっている。進路実現に向けて、学習習慣を定着させることが必要であると考えている。 | 第1回（令和5年7月7日開催） ・教員が相互で授業見学をするのは良いことである。見学後の意見交換のシステム（様式や項目の設定を含む）があれば、さらに授業力の向上に資するのではないかと。 ・小中高の三つの学校が近接している状況で、相互にあいさつの声も広がり、地域としての力強さがある。この環境を生かすつながりをさらに作ってほしい。 ・進学について、とりあえず進学するのではなく、将来どういう職種につきたいのか、どういう人生を送りたいのかを生徒に考えさせてほしい。 |
| 【学校生活】 | 第2回（令和5年11月27日開催） |

| | |
|--|---|
| <p>・「学校に行くのが楽しい」、「学校行事に主体的に取り組んでいる」、「学習環境に満足している」の肯定的回答率が上昇しており、落ち着いて学校生活を送れている生徒が多いと考える。</p> <p>・自転車の運転マナーに対する意識は高水準を維持している。しかし、近隣からの苦情や自転車事故が依然として発生しているため、継続して指導を行うことが必要である。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・「教職員で日常的に話し合っている」、「業務の適切な改善・引き継ぎの実施」の肯定的回答率が低下したが、「取組の点検・評価を行い、次年度の計画に活かしている」、「授業の改善認識」の肯定的回答率は上昇しており、教職員の意識の問題ではなく、多忙であり時間的な余裕がないことが原因であると考えられる。</p> <p>・「学校は働き方改革を推進している」の肯定的回答率が非常に低い。会議資料のペーパーレス化、Webでの欠席連絡、電話対応時間の設定等、可能な限り取り組んでいるが、それにもまして、教職員の多忙感が反映されたと考えられる。教職員が、働き方改革が進んだと実感するためには、さらなる改革が必要であると考えられる。</p> | <p>・北高アカデミア（高校生が小学生を招いて部活動指導をする取組み）について、他校にはない、地域とつながる活動なので、ぜひ続けてほしい。</p> <p>・生徒の進路選択に資するものとして、大学HPの研究室紹介動画や大学の教員を招いての講義等の活用も有効ではないか。</p> <p>第3回（令和6年1月26日開催）</p> <p>・教職員の「働き方改革」について、単に労働時間を減らすだけでなく、負担に感じるものを具体的に探り改善していく必要がある。ICTを活用した情報共有や、会議時間の短縮、メンバーの厳選も効果的である。また、教材研究や生徒指導における「協働」も大切である。</p> <p>・国際交流等の生徒の活動についても、生徒に具体的な目標を示し、それが実現できるように支援を続けてほしい。</p> |
|--|---|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R4年度値] | 自己評価 |
|--------------|---------------------|---|---|--|
| 1 学力・進学保障 | (1) 教志コースの充実 | <p>(1)</p> <p>ア 2年生設置科目「教志入門」のさらなる充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課題についての理解を深める ・新規講師の招聘及び講師との入念な打ち合わせ ・実地実習の事前及び事後指導の充実 ・連携大学のキャンパス訪問 <p>イ 大阪教育大・「教師にまっすぐ」受講、「作文コンクール」応募を促進</p> | <p>(1)</p> <p>ア コース2年生アンケートの取組満足度：95%以上維持 [100%]</p> <p>イ 「教師にまっすぐ」受講者：3人以上[6名] 「作文コンクール」応募者：3人以上[3名]</p> | <p>(1)</p> <p>ア 取組み満足度：100% (○)</p> <p>イ 受講者7名 (◎) 応募者4名 (○)</p> |
| | (2) 生徒の学力向上と進路目標の実現 | <p>(2)</p> <p>ア 1人1台端末の効果的活用を進め、ICTを活用した授業の充実を図り、思考力、判断力、表現力の向上につなげる。</p> <p>イ 授業の相互見学制度(パティシステム)を発展させ、教科の枠を超えて相互に授業を見学することで、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>ウ 希望進路の実現を常に意識させ、授業以外の学習を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種検定（漢検・数検・英検等）の受検促進 ・Advance講座・Basic講座の充実 ・丁寧な科目・コース選択説明会の実施 ・進路分野別説明会・進路講演会の実施 <p>エ 新入生への図書館利活用ガイダンスを充実させ、読書活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション時の図書館利用方法を周知 ・映像化作品の導入 ・図書委員による「図書だより」の発行 ・PTA図書充実費の利用 | <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断(生徒)において、1人1台端末の効果的活用：75%以上 [72%] ICT機器の活用：95%以上維持 [97%]</p> <p>イ 授業の相互見学実施：1人2回以上 [新規] 授業アンケート質問89の肯定的回答率：85%以上維持 [86%]</p> <p>ウ 学校教育自己診断(生徒)において、平日の授業以外の学習時間：各学年ともに昨年度以上 [1年60分、2年52分、3年165分] 大学入学共通テスト出願者：130人以上(学級減) [138人] 進学実績として関関同立、国公立大学への合格総数：それぞれ120人、5人以上(学級減) [119人、5人] 各種検定への延べ参加率：35%以上維持 [38%]</p> <p>エ 図書館利用数(書籍貸出数)：600冊以上維持[275冊]</p> | <p>(2)</p> <p>ア 1人1台端末の効果的活用：82% (◎) ICT機器の活用：98% (○)</p> <p>イ 1人2.5回 (○) 授業アンケート質問89の肯定的回答率：88% (◎)</p> <p>ウ 平日の家庭学習時間 (△) 1年55分 2年45分 3年168分 大学入学共通テスト出願者：158名 (◎) 関関同立 100人 (△) 国公立 5人 (○) 各種検定：34% (△)</p> <p>エ 書籍貸出数：448冊 (△)</p> |

府立高槻北高等学校

| | | | | |
|-----------|---|---|--|--|
| 2 学校生活 | <p>(1)規範意識の高揚</p> <p>(2)安全・安心で意欲的な学校生活の推進</p> | <p>(1)</p> <p>ア 身だしなみマナー向上週間を実施し、制服の着こなしについて指導を行うとともに遅刻者を減少させる。</p> <p>イ 登下校時の交通安全指導の継続、警察及び安全協会と連携し安全講習会を開催する。</p> <p>ウ 生徒に啓発ポスターを作成させることにより、携帯電話使用のマナー指導及び啓発活動を発展継続させる。</p> <p>エ 部活動・学校行事を主体的に取り組む工夫をする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 清掃活動の徹底及び安全点検を定期的に行うとともに施設・設備の改善を図ることで学習環境を整える。</p> <p>イ 生徒が率先して挨拶ができるよう、教職員が率先垂範して積極的に挨拶を励行する。</p> <p>ウ 外部講師を招聘し、新入生にネットリテラシーの講習会を実施する。</p> <p>エ 文化祭時にビデオ上映を行い、献血の意識を高める。</p> <p>オ 新入生歓迎会を充実させ、部活動の加入率及び満足度を高める工夫を行う。</p> <p>カ 教職員の救急講習会に全員が参加する。</p> <p>キ 新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら教育活動を行う。り患情報等緊急連絡用のメールアドレスの管理及び生徒・保護者への周知を徹底する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア 1日の平均遅刻者数を昨年度以下[7.1人]</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)において、自転車の運転マナー意識の向上：95%以上維持[96%] 自転車事故での保健室利用：昨年度以下[47件]</p> <p>ウ 携帯電話の指導件数：昨年度以下 [69件]</p> <p>エ 学校教育自己診断(生徒)において、部活動を主体的に取り組んだ：80%以上[77%] 学校行事を主体的に取り組んだ：90%以上維持[92%]</p> <p>(2)</p> <p>ア～エは、学校教育自己診断(生徒)において、 ア 学習環境の満足度：85%以上維持 [85%] 施設・設備の改善認識：80%以上維持 [82%] 清掃活動や環境整備への取り組み：85%以上維持 [86%] イ 挨拶をしている生徒：85%以上維持[86%]</p> <p>ウ ネットリテラシーを守っている：95%以上維持[97%]</p> <p>エ 献血意義の認識：85%以上 [85%] オ 加入率及び加入者満足度：80%、75%以上 [79%、74%]</p> <p>カ 職員救急講習参加率：90%以上維持 [92%] キ メールアドレス周知文書の配付：5回以上維持[7回]</p> | <p>(1)</p> <p>ア 1日平均遅刻者数：6.5人 (○)</p> <p>イ 自転車運転マナー意識：97% (○) 事故での保健室利用：55件 (△)</p> <p>ウ 46件 (◎)</p> <p>エ 部活動：76% (△) アンケートの回答方法として、現在部活動に参加していない生徒も回答しているため、低い数字となったと考えられる。次年度は部活動参加者の意識を反映した回答となるよう、工夫する。 学校行事：93% (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 環境満足度：87% (○) 改善意識：80% (○) 生徒取組み：85% (○)</p> <p>イ 84% (△) 保護者アンケートでは、「来校時挨拶をしてくれる生徒が多い」について、昨年比5%上昇している。また、近隣地域の小中学校の校長先生からは、今年度特に挨拶をしてくれる生徒が増えた、との評価をいただいている。</p> <p>ウ 97% (○)</p> <p>エ 88% (○) オ 部活動加入率：78% (△) 部活動満足度：74% (△) カ 80.3% (△) キ 3回 (○) 新型コロナウイルス感染症の分類が5類に変更されたこと等により、緊急連絡用メールの使用頻度が減少したため、周知回数は3回であるが、十分であると考ええる。</p> |
|-----------|---|---|--|--|

府立高槻北高等学校

| | | | | |
|-----------|---|--|--|--|
| 3 学校運営 | <p>(1) 学校力の向上</p> <p>(1) ア 分掌業務等で適切な改善・引き継ぎ方法を策定する。 イ 校務処理システムを活用し、校務運営を効率化する。</p> <p>ウ ICT 機器を活用して、授業内容の効率化及びデータの共有化を積極的に推進する。 エ 教職員の働き方改革に係る各種取組を確実に実施し、時間外在校等時間の縮減を図るとともに、健康で意欲的に勤務できる職場環境を実現する。 ・ 定時退庁日(水曜日推奨)/週の確実な実施 ・ 部活動方針の周知及び合同部活動の適切な実施 ・ 欠席連絡効率化、時間外外線電話の受付中止の実施</p> <p>(2) 教師力の向上</p> <p>(2) ア 経験年数の少ない教員の校内研修等を充実させる。 イ 相互授業見学や校内研修を実施し、授業改善を進める。</p> <p>(3) 地域連携</p> <p>(3) ア 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、地域からの信頼を一層高める。</p> | <p>(1) ア～エ(一つ目)は、学校教育自己診断(教員)において、 ア 適切な改善・引き継ぎの実施：85%以上維持[87%] イ 校務処理システムの活用：85%以上維持 [88%]</p> <p>ウ ICT 機器の活用による授業内容の効率化及びデータの共有化：それぞれ 80%、75%以上維持 [83%, 75%] エ 学校は働き方改革を推進している：70%以上 [新規]</p> <p>教員一人当たりの月平均時間外在校等時間：昨年度以下 [40 時間 59 分]</p> <p>水曜日の 17 時 30 以降勤務者：300 以下[新規]</p> <p>高ストレス者：1 人以下 [1 人]</p> <p>(2) 学校教育自己診断(教員)において、 ア 経験年数の少ない教員の満足度：昨年度以上 [77%] イ 研修による授業改善の必要性理解：昨年度以上 [60%]</p> <p>(3) ア 北高アカデメイア参加者満足度：95%以上維持 [97%]</p> | <p>(1) ア 84% (△) イ 79% (△) 校務処理システムを利用していない教員はないはずであるが、それを積極的に活用するという意味をはかりかねたと考えられる。 ウ 効率化：86% (◎) 共有化：75% (○) エ 51% (△) 現在本校において実施している働き方改革の各種取組みについてではなく、実際の多忙感等が大きく反映されたと考えられる。教員一人当たりの月平均時間外在校等時間：43 時間 9 分 (△) 水曜日の 17 時 30 以降勤務者：1153 人 (△) 水曜日の 17 時 30 分以降勤務者数は、300 という目標値からあまりにもかけ離れている。全員定時退庁をめざすことはもちろんであるが、実情を踏まえて方策を検討する必要がある。 高ストレス者：11 人 (△) 昨年のストレスチェック受検者が 38 人、R5 年度が 62 人であり、単純に比較することはできないが、今後さらなる業務の効率化を進める等、改善する必要がある。</p> <p>(2) ア 72% (△) イ 63% (○) (3) ア 97% (○)</p> | <p>(1) 広報活動の強化</p> <p>(1) ア 本校の教育内容及び連携機関の周知を図る。 学校説明会の充実(生徒が参加、活躍する。) ホームページの更新、内容の充実 メールマガジンの配信 校長通信の発信 バナー広告の契約数維持</p> <p>イ 地域中学校、教育産業の訪問、広報を強化し、スクールミッション・アドミッションポリシー(AP)を周知する。</p> <p>(1) ア 学校説明会 参加者満足度 95%以上を維持[100%] ホームページ更新 : 30 回以上維持 [32 回]</p> <p>アクセス数 : 6 万回以上[59102 回]</p> <p>メールマガジン配信 : 30 回以上維持 [33 回]</p> <p>校長通信発信 : 80 回以上維持 [107 回]</p> <p>バナー広告契約数 : 3 件維持 [3 件]</p> <p>イ 7 月実施の学校教育自己診断(生徒)において、 A P を読んだことがある 1 年生：昨年度以上[89%]</p> <p>(1) ア 満足度：100% (○) 更新：58 回 (◎) アクセス数：69122 回(○) 配信：56 回 (◎) 校長通信：89 回 (○) 契約数：5 件 (◎) イ 85% (△) 実際は、もう少し多くの 1 年生が読んでいると考えられる。</p> |
| 4 広報 | | | | |